

平成 30 年度沖縄県認知症支援推進事業 宮古島市 若年性認知症相談会

報告書

1. 名称：「平成 30 年度沖縄県若年性認知症支援推進事業
宮古島市 若年性認知症相談会」
2. 日時：2018年6月12日（火）～14日（木）9時～17時（最終日は15時まで）
場所：宮古島市役所 ロビー、会議室
3. 目的：広く若年性認知症について啓発を行うと同時に支援者へ研修を行うことで、
若年性認知症の一人ひとりがその状態に応じた適切な支援を受けられること
を目的とする。
4. プログラム：ロビー内でポスター展示、無料相談コーナー設置
※個別相談時は、会議室へ移動し相談対応（1時間目安）
5. 広報先
支援者研修ポスター内同時広報し、チラシで県内関係団体へ発送。
宮古毎日新聞へ5月記事投稿、無料告知掲載2回

6. 当日の様子

来場者総数：

（イベントを知らない方でもポスター展示に興味を持たれ、ポスターをじっくり読まれた方も含めています）

	男性	女性	合計
6/12	9名	18名	27名
6/13	12名	15名	27名
6/14	5名	8名	13名
合計	26名	41名	67名

来場者のうち相談された方：

	直接的相談 (本人・家族)	間接的相談 (支援者・友人)	合計
6/12	0名	0名	0名
6/13	5名	3名	8名
6/14	1名	0名	1名
合計	6名	3名	9名

相談者 9 名の詳細：

若年性認知症者 5 名、一般の立場で地域の居場所づくりに関する相談 1 名、
専門職の立場で医療連携に関する相談 2 名、 対象外 1 名

ポスター展示コーナー来場者のコメント：

- ・支援をしたことないが、立場上、これから相談者が来た場合、どうしたらいいか、ポスターを見ながら尋ねられていた。（介護保険事業所ケアマネ 1 名）
- ・相談会の様子について、「どんな反応ですか？」（相談機関 2 名）
- ・当時（H25 年頃）、同じ病の人に会いたくても、どこに相談したらいいかどこに行けば会えるのか、わからなかったし、教えてもらえなかった。最近、夫（若年性認知症当事者）の通う介護保険事業所の人繋げた同じ病のご夫婦に会ったが、その人が同じように、同じ病の人に会いたかったと尋ねてきた。最近もあまり変わらず同じ状況なんだと思った。今回の相談会のことは、新聞をみて知っていたが、話に来る人はいるのか・・・と正直、思うよ。（H25 年度より沖縄県若年性認知症支援推進事業主催 本人交流会を利用されてきた介護家族の方）
- ・今回の相談会について「医療と介護の連携室」へ広報依頼も有効であったのではないかと（支援者 2 名）
- ・家族同士で同じ病の人に会いたいと話をするが、家族会が定例で行なわれていないようで場がない。
- ・家に引きこもる母親は高齢であるが、どのようにサービス利用に繋げたほうがいいのか、教えて欲しい。（介護家族）
- ・私の息子は障害者ではないのだけど仕事が出来なくて困っている。娘もいるが色々ある。認知症ではないが、こういう時はどこに相談に行ったらいいか（40 歳代の方）

所感：3 日間開催について

今回、市役所 1 階ロビー内で、若年性認知症啓発ポスター展示と相談コーナーを設置させて頂いた。若年性認知症の啓発目的のポスター展示と相談コーナー設置は初めての試みであったが、広報として配布したポスターや新聞投稿で、開催を知っている方、知らない方、それぞれに関心を持って頂いた。当初、人目を気にされ相談者は訪ねられないのではないかと懸念もあったが、実際に 9 名の方に相談頂き、支援を進めることが出来た。相談者にとっては、明確な相談場所を求めていることを感じた。また相談会場が役所内であったことで、相談者にとっても、相談対応者にとっても、その場で直接的に関係部署へ同行し、お繋ぎできることは大変有効な開催であると感じた。

若年性認知症の正しい理解啓発に向けた開催となり、県内の若年性認知症の方、ひとり一人に応じた支援開始の仕組み作りとして、今回の開催はモデルケースとなるのではないかと考える。

県内の普及啓発に向けた事業計画のヒントを頂き、理解頂いた宮古島市の皆様に、心より感謝申し上げます。

担当中野